

NO.499

人権さんだ



UD FONT
見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

「関係ない…」
弱い自分が
いませんか？
長坂中学校2年(前年度)
丈野 想空さん

令和元年度
三田市人権標語入選作品

人権さんだは、みなさんに人権に関する気づきや情報などをお届けします。
新たな発見や共感したことなどを含めてご意見、ご感想を人権推進課までお寄せください。
問い合わせ＝福祉共生部共生社会推進室人権推進課
(559-5148 FAX562-1294 eメールアドレス jinken_u@city.sanda.lg.jp)

10月は性的マイノリティ支援強調月間です 性的マイノリティと災害

災害にみまわれ避難所生活を余儀なくされたとき、そこでの生活のしにくさはすべての人にとって共通のものであります。しかし、同じ状況におかれても、性的マイノリティの人にとっては特有の困難さが伴います。

今号では、性的マイノリティへの支援活動を行っている日本LGBT協会事務局の吉田万里さんに「性的マイノリティと災害」についてお話をうかがいました。



▲吉田 万里さん

避難所に行けない不安や悩み

同性が好き人や、身体の性別と心の性別が一致しない人など、性的マイノリティの人が避難所を利用する際、次のような不安や悩みが生じます。

男女別の狭間で

見た目が別の性別に近い人や中性的な人は、男女別に設置されたトイレを利用すると、誹謗・中傷されたり、時には暴力を振るわれたりすることもあります。



ます。また、生理用品や下着、ひげそりなど、男女別に支給される物資を受け取りに行けないこともよくあります。

周囲の視線

学校の体育館など、多くの人が集まる避難所ではプライバシーを守ることが難しく、同性パートナーと生活を共にすると、周囲から奇異の目で見られることがあります。

性犯罪被害

東日本大震災の時に、避難所で性犯罪被害が多数発生したと言われていますが、この場合、被害者が女性、加害者が男性とは限りません。性犯罪の被害者は、ただでさえ他者に相談することに大きな壁があります。さらに性的マイノリティの人は、相談員が性的マイノリティについて正しく理解している人なのかどうかという不安も伴うため、相談ができません。



平時から望まれる環境づくり

災害はいつ起こるか分かりません。災害時に避難所として使われる公的施設などには、平時から多目的トイレを設置することは最低限必要なことだと思っています。トイレに限らず、避難所での風呂や更衣室などについても、プライバシーに配慮した空間をできる限り準備することが大切です。



また、災害時には、大きなストレスを感じたり問題を抱えたりする人の相談窓口などが設置されます。この相談窓口などには性的マイノリティについての理解者をおき、安心して相談ができる体制を整えることも必要です。性的マイノリティの人が誹謗・中傷されたり、差別されたりしないよう、まず環境面でプライバシーが守られ、条件整備がされる中で、安心を確保することが大切だと思います。

すべての人にとって

被災者の中には性的マイノリティの人だけではなく、車椅子利用者や、人工肛門(オストメイト)を使用している人など、さまざまな事情を抱える人がいます。先にお話した、施設や相談体制の充実、性的マイノリティの人だけの問題ではなく、すべての人にとって大切にされるものだと思います。

編集後記

お話を聞き、災害時に性的マイノリティの人が直面する具体的な困難さを知ることができました。また、それは多くの人のとつても共通の課題となるものだと感じました。避難所生活は我慢を強いられることも多いのですが、私たちの周囲には、それぞれがそれぞれの不安や悩みを持った人がいるのだという意識を持ち、普段から互いに理解し合える社会にしていきたいと思っています。

るものだと思います。
また、災害が起こった時は、地域社会で互いに助け合おうという気持ちで、人々の生命や生活を守ることにつながります。そのため、普段から地域の中で住民同士が知り合い、広くつながりを持つことが大切です。そんな中で、私たちの性のあり方についても、一人一人違っていることへの理解を進めていくことが必要だと感じています。

性的マイノリティの人権を守るために必要なことは、「特別扱いすることではありません。この問題を人や家族のあり方の問題としてとらえて、互いを認め合い、共に生きていける地域をつくること」は、すべての人にとって生きやすい地域づくりになると思います。

